

20051

#### カテーテルシミュレーション装置を用いた職種別放射線防護教育システムの開発

【目的】IVR 領域におけるスタッフの被ばく防護教育について考えた時、各職種における基礎知識や意識の差が大きく、統一された教育内容では学習効果が得られない場合がある。そこで、血管撮影装置やカテーテル手技などの術場が再現され、さらに放射線空間線量分布および術者被ばくがリアルタイムに可視化できるシステムの開発をおこなった。今回我々は、本システムを用い IVR に従事する医師およびメディカルスタッフに対し放射線防護教育を実施しその効果について検討した。【方法】システムを用い C アームの角度、透視と撮影、インチサイズ、放射線防護具の有無など 7 項目について、医師、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師に対し放射線防護教育を実施した。教育効果については、教育前後において質疑応答形式の理解度試験を 16 項目実施、評価した。【結果】教育による理解度は教育前後で、医師 65%が 100%、看護師 47%が 94%、臨床工学技士 35%が 100%、診療放射線技師 66%が 97%であった。特に各職種とも「C アームの角度変化による放射線被ばくについて」の項目に対し教育効果がみられた。【結論】放射線被ばくについて、我々が開発した放射線防護教育システムを用い教育を実施することにより、疑似体験的に学習が可能となり、IVR に従事するスタッフに対し、効果的に教育することができた。